

インパルスは『インテグリティ』を最も重要視しているチームです

# ブレナン翼 WR

パナソニック株式会社  
エレクトリックワークス社  
スポーツエンゲージメント推進部



Xリーグの強豪、バナソニックインパルスはどんなチームなのか？選手やスタッフが学生時代に抱いていた印象と、一員になってから体験した実際の姿を語る。早稲田大を卒業し、米国でプロフットボール選手を志した後、昨年、プロ選手(※)としてインパルスの一員となったWRブレナン翼は、人として成長を目指すインパルスの一員として戦う中で、様々な学びがあったと言う。

——大学卒業後はどんな活動をされていたか？

**ブレナン** 米国やカナダでプロフットボール選手になる道を模索していました。卒業する年の1月にフラボウルに招聘していただき、3月にCFLコンバインに参加した後、米国で様々なトライアウトに参加しようと考え、アリゾナのトレーニング施設で自主トレーニングを積んでいました。しかし、新型コロナウイルスの影響もあって、機会を得ることができませんでした。

——インパルスとの出会いは？

**ブレナン** 元々、米国やカナダでム神戸戦の序盤、ランプレーの時にLBをブロックしたのですが、相手のヒットも強くて一瞬足が止まってしまいました。その瞬間にボールキャリアを追いかけて流れてきたLBに横から当たられてしまい、膝を負傷してしまいました。

このケガが、ライスボウルの最後のプレーで、相手のDBと競り合った時にボールに飛びつききれなかった原因になってしまいました。負傷をってしまったプレーでも、もう少し違う角度でヒットしていれば、もし、あと一歩ドライブできていれば、ライスボウルの最後のプレーのキヤッチができていたかもしれません。目の前の1プレーが次につながることを改めて学びました。

——日本一というタイトルはブレナンさんにとってどんな意味を持っていますか？

**ブレナン** すべてのアスリートにとって一番になることは夢だと思います。私自身、子供の頃からフットボールをしてきて、まだ一度の一番になったことはありません。

実は昨年、負傷した後にはドクターからは2つの選択肢を示されました。1つはすぐに手術をして来年に向けた準備をすること、もう一つは保存的に治療してライスボウルでプレーし、シーズン終了後に本格的に治療するというものでした。

私は迷わずライスボウルでプレーすることを選択しました。自分のキャリアだけを考えるならば、すぐに手術をして翌年、米国のプロにもう一度挑戦する選択肢を残すという

チャンスを抑えなかった時はXリーグでプレーしようと考えていました。様々なチームからオファーをいただきましたが、インパルスの(デビッド)モトウさんからメッセージをいただいたことが大きかったです。モトウさんの存在は大学の時から知っていました。

は違うライフスタイルを過ごしている中で、同じ日本一という目標に向かって努力を続けている皆の姿勢は、プロ選手である私にもっと高いレベルを目指すしなければならぬという責任を強く意識する材料にもなっています。

誠実さ、高潔、真摯さという意味の言葉ですが、ブレナンさんはインパルスにおけるインテグリティをどう理解していますか？

**ブレナン** 色々あるのですが、最も大切にしているのは感謝です。素晴らしい環境でフットボールをプレーできること、その環境を整えてくれている会社の皆さん、サポーターやファンの方々の感謝の気持ちを持って行動することが大事だと考えています。



選手としても一人の人間として、倫理的であることも大事にしています。しっかりと挨拶をするなど、日常生活において周囲の方々に誠実に接することも、倫理的な行動の一つの例です。

そして、これは私の個人的なものですが、フットボールを楽しんでプレーすることです。

——昨シーズンはブレナンさんにとってどんなシーズンでしたか？

**ブレナン** 仕事とフットボールを両立しているチームメイトを本当に尊敬しています。仕事をするということは、フットボールとは違う肉体的、精神的な疲労があると思います。その上でフットボール選手として高いレベルを常に目指しています。私と

が、インパルスの他の多くの選手は仕事とフットボールを両立しています。ブレナンさんにとって、チームメイトの存在はどんな影響を与えていますか？

**ブレナン** 仕事とフットボールを両立しているチームメイトを本当に尊敬しています。仕事をするということは、フットボールとは違う肉体的、精神的な疲労があると思います。その上でフットボール選手として高いレベルを常に目指しています。私と

——2022年シーズンの目標を聞かせて下さい。

**ブレナン** 春はリハビリに専念していますが、順調に回復していますので秋には万全でプレーできます。昨年は2年ぶりの実戦ということもあって、気負いすぎてうまくいかなかったという反省があります。今年はいききたいと思っています。一方で、私に求められているのはビッグプレーであるとも思っています。私がビッグプレーをして、周囲が盛り上がり、そのエネルギーをまた受け取ってもらったというプレーが生まれる。そんなサイクルを生み出せるようなプレーをしたいと思っています。



レギュラーシーズン最後のエレコ

※X1Superでは登録規定により4名までの日本人プロ選手の登録が認められています。



## Tsubasa Brennan

ぶれなん・つばさ。1997年7月29日生。1歳の頃に渡米し、ハワイと大阪を行き来する幼少期を過ごした。小学4年生から少年フットボールをはじめる。当時は1年間で辞めてしまったが、中学1年時に再開。高校時代シニア時にはオールハワイのファーストチームに選出された。U19日本代表を目指して早稲田大に進学。2016年U19、2018年カレッジ日本代表の中心選手として活躍。大学4年時に出場した甲子園ボウルでは敢闘賞を受賞した。2021年インパルスに入団。15捕球244ヤード2TDを記録した。



IMPULSE

パナソニック インパルス 検索

panasonic.co.jp/ew/go-go-impulse/



Facebook  
www.facebook.com/  
Panasonic.Impulse

Twitter  
@gogo\_impulse